

富山の薬は今～業界紙記事から

発行：日本置き薬協会 事務局

厚生労働省医政局経済課は3月31日、平成26年度薬事工業生産動態統計年報を公表した。配置用医薬品生産金額は前年に比べ9.6%の大幅減で204億5,900万円となり、ピークの平成9年から17年続く減少傾向は止まらず、当時の三割程度に落ち込んだ。一方で医薬品の生産拠点としての位置付けを高めている富山県は医療用やジェネリック分野、受託製造で堅調に数字を伸ばして過去最高の6,126億5,600万円を記録。上位が伸び悩む中で第一位の埼玉県の6,417億2,100万円に迫り待望の首位が見えてきたと関係者は期待感を持っている。

こうした中で（一社）富山県薬業連合会の配置薬振興委員会は、三菱東京UFJ銀行に今後の富山県内の配置薬製造の改革案を依頼。これを受けて同行より「配置薬事業の持続的発展に向けた共同事業体設立に係る提案」が2月に出され、傘下企業の意向調査を行った。対象21社中、参加意向を示した4社で今後、具体化に向けて審議される事となった。また、参加を見送る企業より製造部門の統合化を促進すべきとの意見もあり、並行して検討することとなった。

同会会長の中井敏郎氏（東亜薬品(株)代表取締役）は、3月24日の28年度予算理事会の挨拶で、北陸新幹線開業から1年が経過し、PMDAの機能の一部移設、県外からの企業誘致や首都圏との交流を捉え、「業界にも活性化を与えていて新幹線は凄いという効果を体感している。一番頭の痛いのは、配置薬の衰退。このままでは富山の伝統産業がどうなるか不安感があり、正副会長会でも真剣に議論している」と述べている。

では消費者は配置薬をどう捉えているのだろうか。3月4～6日開催の「富山くすりフェア」の15,438人の来場者の中から得られた1,158名のアンケート集計が以下である。

配置薬システムの認知度 89.2%

配置薬を利用している 15.7%

配置薬を利用したい 25.4%

配置薬を利用したい理由 ○イベントを通じ配置薬の仕組みを知って ○年齢的に配置薬の存在を知らず新鮮で ○安心感がある ○パッケージに好感

配置薬を利用しない理由 ○一人暮らしなどで家を不在にすることが多く、薬の購入は近くのドラッグストアになる ○生活スタイルに合わず断念した ○どこに頼めばよいか分からない ○なにかあれば医者に行く ○ニーズに合わない ○24時間営業のドラッグストアで購入

本件に関するお問合せ先

日本置き薬協会 事務局

〒114-0023 東京都北区滝野川3-56-9

TEL. 03-5974-6227 FAX. 03-3917-9081

日 置 協